

●手賀沼水面鳥類センサス結果

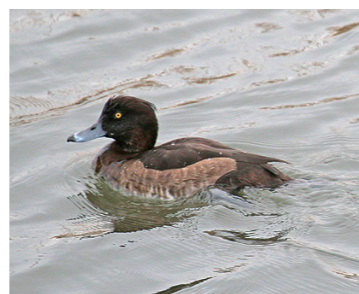
調査日:2015年12月15日、2016年1月14日、2月17日(9:00~12:00)

科名	和名	12月	1月	2月
カモ科	マガン	0	0	1
	オオハクチョウ	0	0	4
	オカヨシガモ	30	12	8
	ヒドリガモ	12	8	20
	マガモ	100	81	95
	カルガモ	304	55	48
	オナガガモ	145	110	65
	コガモ	227	275	40
	ホシハジロ	1	29	9
	キンクロハジロ	3	0	0
ミコアイサ	4	4	9	
カイツブリ科	カイツブリ	20	19	25
	カンムリカイツブリ	61	46	23
	ハジロカイツブリ	6	0	2
ウ科	カワウ	141	125	78
サギ科	ゴイサギ	2	0	0
	アオサギ	32	35	14
	ダイサギ	11	13	5
	コサギ	40	13	6
クイナ科	クイナ	0	1	0
	バン	2	4	4
	オオバン	131	153	107
カモメ科	ユリカモメ	177	173	46
	セグロカモメ	1	2	3
	ニシセグロカモメ	1	1	0
タカ科	ミサゴ	1	3	0
	トビ	1	2	0
	チュウヒ	1	2	0
	ノスリ	0	1	0
カワセミ科	カワセミ	4	8	5
ハヤブサ科	ハヤブサ	0	1	0
カラス科	ハシボソガラス	4	2	5
	ハシブトガラス	0	1	0
セキレイ科	ハクセキレイ	0	0	1
	セグロセキレイ	2	2	0
	コブハクチョウ	44	41	42
家禽や外来種	アヒル	6	2	4
	バリケン	0	0	1
	ドバト	0	0	3
	合計*	35種	1462	1179

*不明種、家禽や外来種を除く



オオバン(1月)



キンクロハジロ(1月)



カワウ(2月)



ミサゴ(2月)



オオハクチョウ(3月)



マガン(3月)

あびこ鳥だより

Spring
2016
【春号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.42



利用案内

- 開館時間 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
館内整理日、年末年始(12/29~1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	600円	
	高校生・大学生	400円	

・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳をお持ちの方(付き添い1名含む)

・中学生以下の方は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ:我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639

ホームページ: <http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp/>

交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由

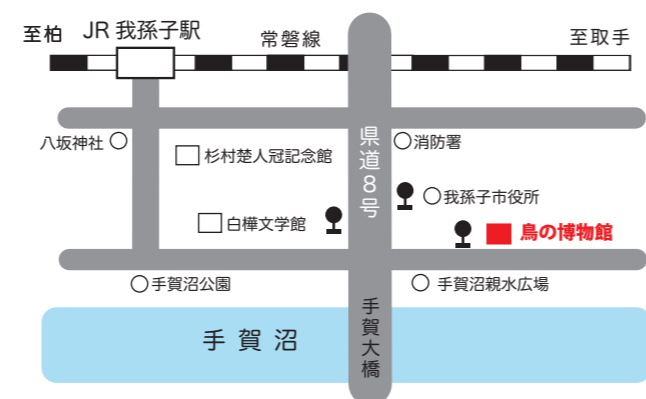
バスで「市役所」下車、徒歩5分

*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています

我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車

天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車

自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



【特集】

スバルバルライチョウとニホンライチョウ

【最新情報】

手賀沼にはオオバンは何羽いるの? ~オオバン個体数調査結果~

新着はく製標本のお知らせ

表紙の鳥 チュウシャクシギ

はじめまして。今年度より鳥の博物館に配属になりました、学芸員の美濃です。初めてのことばかりで至らない点も多いと思いますが、精一杯努力致しますので、よろしくお願い致します。

今回は私が研究していたスバルバルライチョウと、その研究内容についてお話しします。

スバルバルライチョウとニホンライチョウ

スバルバルライチョウは、ノルウェーのスバルバル諸島などに生息している亜種で、ニホンライチョウとは近縁の関係にあります。ニホンライチョウはライチョウの中で最南端、本州中部の高山帯に生息している亜種です。近年では温暖化による環境変化の影響による住処の減少や、キツネ、カラスなどの捕食者の増加によって個体数を減らし、最新の調査では2000羽弱にまで減少しています。そこで、2012年にニホンライチョウの保護増殖事業計画が策定されました。ニホンライチョウの人工飼育技術の向上に向けて、まずは亜種であるスバルバルライチョウの飼育から実施されました。スバルバルライチョウの繁殖に関して、いくつかの機関で研究がされています。また、2014年には遂にニホンライチョウの人工飼育が始まりました。

生息数を減らした鳥は、簡単に数を増やすことはできません。動物園などで数を増やすには、その種の生活環境についてよく理解していなければ繁殖を成功させるのは難しいことです。ライチョウだけでなく、絶滅の危惧される他の動物においてもさまざまな機関や施設で研究がされています。

何を研究していたか

私が研究していたことは、1羽のスバルバルライチョウにどのような羽が生えているか、また、頭や背中、脚などのいくつかの部位ごとに何枚の羽があるかなどです。分布している部位ごとに羽の形は異なります。また換羽と繁殖とは深い関係があります。どのような羽があるのかを記録することで、スバルバルライチョウの飼育時に抜け落ちた羽根が体のどこにあったのかを推測し、そこから繁殖周期を見出すことができなかつたかということを目指していました。



スバルバルライチョウの羽

調査を行った個体は冬羽の状態だったので、1枚目の写真のように先端が黒い尾羽を除いて真っ白な見た目をしていました。スバルバルライチョウは、換羽によって夏羽の状態と冬羽の状態に外見を変化させます。夏羽になると白い羽はほとんど茶色のまだら模様の羽に生え変わります。胸や背中といった体の羽根や、翼にある雨覆(あまおい)羽には、2枚目の写真のように長い後羽がついていました。

今後はライチョウなどのキジ目鳥類だけではなく、他の種類の鳥の羽根や換羽にも着目していきたいと思います。



スバルバルライチョウ

全長約40cm。写真はオスの冬羽の姿です。目の上には赤い肉冠がある。あしの指にまでびっしりと羽毛が生えている。

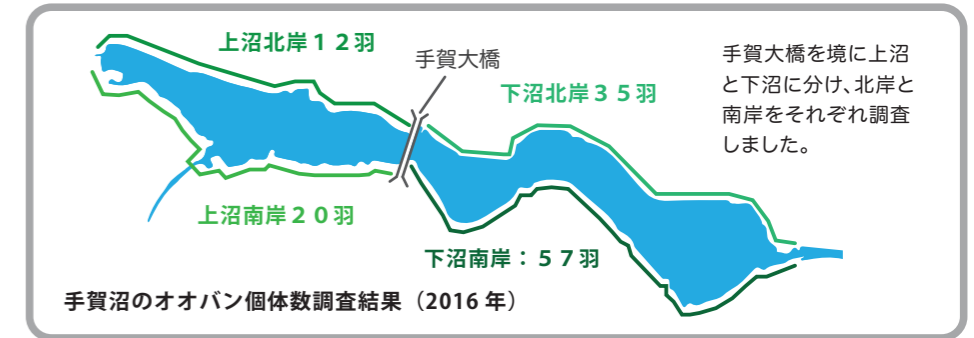
手賀沼にはオオバンは何羽いるの? ~オオバン個体数調査結果~



つがいで行動するオオバン



調査の様子



鳥の博物館では、我孫子市の鳥オオバンの個体数調査を毎年、オオバンの繁殖期に手賀沼で実施しています。オオバンは近年、全国的に増加傾向にありますが、手賀沼では減少傾向にあります。

4月20日に職員5名、市民スタッフ7名で調査を行いました。手賀沼を4つのエリアに分け、手賀沼の遊歩道を歩き、見つけたオオバンの数や行動を記録しました。

今年の結果は合計124羽(24つがい) 上沼北岸:12羽(2つがい)、上沼南岸:20羽(3つがい)、下沼北岸:35羽(7つがい)、下沼南岸:57羽(12つがい)でした。個体数が100羽を超えたのは2008年以来で、手賀沼のオオバンは少し回復傾向にあるかもしれません。今後も手賀沼の環境の変化の指標として、繁殖期のオオバン調査を継続する予定です。

新着はく製標本のお知らせ

最近製作した標本の中から、新しい標本や興味深い標本について紹介します。北海道羽幌町の北海道海鳥センターから斃死鳥(へいしちょう)をまとめて寄贈いただき、平成27年度にウミバトとヒメウの標本を製作しました。

ウミバトは、北日本を中心に数少ない冬鳥として渡来しますが、千葉県など関東地方では稀で、標本資料を得るのは難しい種です。ヒメウは日本全国で普通に見られる鳥ですが、これまで鳥の博物館には標本がありませんでした。日本産鳥類の中で未収集の種はまだ沢山ありますので、今後も国内外の機関と連携してコレクションの充実を図っていきます。



ウミバト
(チドリ目ウミスズメ科)

全長約32cm。写真の標本は冬羽の姿。



ヒメウ
(カツオドリ目ウ科)

全長約73cm。写真は冬羽の姿。日本冬は沖合で観察されることが多い。に分布するウの仲間では最も小さい。

イベント情報

- 自然観察会
- てがたん~自然観察会~
時間：10:00~12:00
集合場所：博物館入口 (予約不要)
6月11日(土) 「探してみよう!コケの世界」
- *自然観察会は高校生以上の方は保険料100円がかかります
*館内で行うイベントは参加無料でも入館料が必要です

- 講演・座談会
- テーマトーク
「オオミズナギドリの持ち時間ーネコが激増する世界最大繁殖島・御蔵島の今ー」
時間：6月11日(土) 13:30~14:00
場所：博物館多目的ホール
定員：先着50人(参加無料)
講師：岡 奈理子さん(山階鳥類研究所自然誌研究室上席研究員)

2016年6月